

本柴孔雪二の巻

上野介藤原重名釋

○夏 二十首

毛とうへをかりゆくへきあ鷹鳥屋際あきるをさへるをれあ赤府ふれむ

古謡よ云ぬくもう鷹ハ何う府あくる鷹あくる何うなればや

もれまへはもさつるのをけ鷹れはさへみあを女もささる

忘飼のより新よいへり此外隠さるるあなへちるまぐやう

詞あくるまもさるの始れ歌とん

あきるをさへる八日業師の日あれを鷹よ羽あれをささるうらん

古謡よ云ぬく卯月八日入る七月十日はせも又或鷹書ハ